

# としょぶらり

## 米子高専図書館報

ISSN 1344 - 5634

第105号

平成30年8月6日 発行  
米子工業高等専門学校図書館

### 米子高専が目指す 技術者像

校長 氷室 昭三

科学技術の発展は、瞬く間に社会・経済のルールを変化させ、人々のライフスタイルや、社会と人間の在り方にも影響をもたらしています。今やイノベーションは、これまでの延長線上ではないところに発現し、瞬時に世界に拡散するようになってきました。

平成27年(榊野村総合研究所は、英オックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究により、国内601種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算しています。この結果によると、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、それらに代替することが可能との推計結果が得られています。

一方、ニューヨーク市立大学のキャシー・デビッドソン教授は、「2011年に入学した小学生が大学を卒業して就職するとき、65%は今存在していない企業に就職するだろう。」と述べています。

これらは、変化する社会・経済のニーズに対応した人材が求められることを意味しています。将来の変化を予測することが困難な時代を生きる学生諸君は、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい社会的・経

済的価値を創出する力を持たねばなりません。

わが国においても、科学技術イノベーション政策を、社会・経済及び公共のための主要な政策として位置付け強気に推進しています。平成28年1月22日付け閣議決定された「第5期科学技術基本計画」には、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来の姿として提起し、新しい価値やサービス、ビジネスが次々と生まれる仕組み作りを強化すると書いてあります。

これらに対応するためには、学生諸君には未来の産業に向け果敢に挑戦する技術者になってもらう必要があります。特に、この地域では未曾有の高齢社会を迎え、高齢者医療・福祉の高度化への対応や人材不足を補うため、新たな医療機器の開発やAI・IoT、ビッグデータを活用できる技術者が望まれています。

そこで、本校は近接する鳥取大学医学部と包括連携協力協定を締結すると共に、医工連携研究センターを設置して、第4次産業革命対応型医工連携教育システムの構築を図り、融合複合的技術者(メディカルエンジニア等)の育成を目指したいと考えています。

また、高学年及び専攻科まで俯瞰した新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育を展開したいと考えています。このことにより、学問のすそ野が広がり、様々な角度から物事を見ることができるようになり、自主的・総合的に考え、的確に判断する能力、さらには豊かな人間性が養われ、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる能力が身につくと思います。

学生諸君が、地域企業等の実状を理解し、マネジメント能力や語学力等を身に付けたグローバル人材となり、融合複合的技術者として地域で活躍することを願っています。

## 目次

米子高専が目指す技術者像	1
新任教員おすすめの本	2
図書委員から図書に関する紹介	2
国語科・社会科による「読書カード」取り組み事例の紹介	3
学生時代に読むとためになる本(教員推薦コーナー)	5
読書感想文募集について	9
新着図書一覧(平成30年2月～6月)	10
図書館統計	12
学生図書委員一覧	13
読書会についてのお知らせ	14
米子高専 文化セミナー	14

## 新任教員おすすめの本

『科学史概論』ムイスリ出版 1997年  
渋谷 一夫 ほか 著

電気情報工学科 本村 信一

学生の皆さんの中には、理数系が得意で歴史は興味がないと思っている方も多いかと思います。しかしながら、科学の発展は歴史抜きには語るできません。それは、科学が古代王朝の隆盛や宗教の影響、ときには戦争の影響を受けて進化を遂げてきたからです。この書籍では、人類の自然認識活動に始まり、算術・天文術・医術の誕生、古代ギリシャ・アテネ・ローマ・アラビアの科学、中世の物理学や天文学の発展、近代における物質科学や生物学の形成などについて、当時の政治や思想・宗教からどのように影響を受けてきたのかを読み解くことができます。また、中世から近代にかけて活躍した、コペルニクスやガリレオ、ニュートンの功績は読み応えがあります。

さて、学生の皆さんはなぜ歴史を学ぶのだろうかと思ったことはありませんか。暗記ばかりで嫌だなと感じている学生もいるでしょう。私の好きな言葉に「温故知

新(おんこちしん)」という故事成語があります。これは、「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」という意味があり、昔の歴史を調べて考えることで現在や未来を知ることができるというものです。科学史を学ぶことは、21世紀において科学はどうあるべきなのかを問うことにもつながります。環境問題や生命倫理の問題、人工知能による社会への影響などの現代科学が抱える諸問題に対し、先人の知恵や思想を学び、これを未来に活かすことができます。このように考えると、歴史の授業の見方が変わっておもしろく感じられるようになると思います。



## 図書委員から図書に関する紹介

図書委員長 物質工学科 2年 平井 壘

皆さんは、図書館を利用していますか?あんまり図書館を利用しなかったり、レポートを書く時、参考文献を借りただけだったりしませんか?それは少しもったいないと僕は思います。

図書館には、参考文献だけでなく小説や実用書など、様々な種類の本があります。それも堅苦しいものだけでなく、ライトノベルやエッセイなど気軽に読めるものも沢山あります。また、読みたい本が図書館に置いてなかった場合、図書館にリクエストするとその本を置いてもらえることがあります。

是非、皆さんも気軽に図書館を利用したり、読みたい本のリクエストをしてみたりして下さい。

『それが聞けてよかった!!』

図書委員 建築学科 5年 岡田 仁子

新年度、図書委員的にはメンバーの入れ替えが行われます。今回は一年生を中心に有志新メンバーに集まってもらい、意見交換会を執行。メンバー(敬称略)は、もっと勉強がしたい!1年物質工学科、坪根百花。夢はハイテクおばあちゃん!1年電気情報工学科、佐藤結衣。真摯で紳士に生きたい!1年電子制御工学科、森下武尊。高専の授業が楽しい!1年機械工学科、安藤和哉。何かに夢中な大人に憧れる!4年物質工学科、上原由梨奈。共通項である本の話題を皮切りに個性豊かな話が聞けた。

まず聞いたのが本の魅力。坪根は「文字から想像するのが楽しい、同じ本でも読む人によって違うイメージを抱くのが面白い。」と語る。しかし高専に入ると中学時代に比

べやることが増え、読書に充てる時間が減ったという。そんな中、1~3年生には本を読んで感想文を出す取り組みが行われているらしい(編集注:「読書カード」の取り組みのこと。詳細は渡邊先生の記事を参照)。佐藤、森下が「本を読むきっかけとしてはいい」という考えも持つ中、全員一致した意見は上原の「冊数だけ読んでも読書の意味はない」だった。冊数だけ読むことを半強制的に行っても、読書の魅力に気付くきっかけとはなりにくいらしい。どうすれば読書が楽しいと思ってもらえるきっかけになるのかを我々で少し考えてみたところ、佐藤の「小中学校のように朝読書の時間をつくる」、安藤の「学級文庫に長編の途中まで置いておいて続きを積極的に図書館などで借りてもらう」などが挙がった。冊数を稼がせるより、読書をする時間を設ける方が真面目に読む人が増えるというのは理にかなった意見だと思った。図書館に行かなくても読める学級文庫の手軽さも魅力的だろう。

“読書について”と並び主題として議論が交わされたのが“リベラルアーツ”について。昨年、米子高専はリベラルアーツセンターを開設。ということで、この会でもリベラルアーツって必要だと思う?と投げかけてみたところ、思ったより皆の反応が薄い。坪根の「リベラルアーツって何かよくわからない」という発言に頷く一同。私も改めて説明しようとする、リベラルアーツセンター開設式などで散々話を聞いたはずなのに今一つしっくりくる説明が浮かばない。広く言えば“教養教育”に当たるこの言葉。佐藤が「リベラルアーツって言葉や、された説明が難しくよくわからない」と言うように、まだまだなじみがなく、“難しいもの”“親しみにくいもの”として認識され、敬遠されてしまっているようだった。だが専門分野以外での知識や見識、という見解で話

を進めていくと、森下は「絶対にいずれ役に立つから必要なもの」だと即答。上原も「専門だけやっていると駄目だと思う」と同調。高専5年間で学びたいことは何かという問いに対して坪根が「自分の意思を日本人だけでなく広く世界に伝えられる人間になるため英語を学びたい」と言った時には、それもリベラルアーツの一種だろう、という話になり、「リベラルアーツ」という難しく思われた題材のトークが10代の等身大で動き出した。上原は「リベラルアーツは道徳でもあるのかな」、安藤は「人と楽しく喋るのにも教養は必要だと思う」とそれぞれの結論にたどり着いたようだった。人間として必要であるはずのリベラルアーツであるなら、もっと分かりやすく身近なものになっていくべきだ、というのがこの会の総意となった。

最初こそ緊張の面持ちで始まった会も、進むにつれ笑いの起こる和やかなものとなった。こうやって委員会での事務的な関りしかない顔ぶれが意見を交換し話しあうことだってリベラルアーツの一端と言えるのではなからうか。ディベートというにはゆるい雰囲気の座談会的な集まりだったが、本当は1時間半に及ぶ会話の中で出たすべての意見をお伝えしたいぐらいだ。このような交流が続いてい

くといいな、という期待を込め、勝手ながらこれを“第一回座談会”と表しておく。そして会の最後に全員に向かって思い切って2つの質問をした。「米子高専に入ってよかった?」「本が好き?」どちらにも、皆がいい笑顔で、間髪入れずに返事してくれた。「よかったと思ってます!」「はい!」と。ああ、それが聞けてよかった!!

今後もビブリオバトルなど活動を展開していく予定の図書委員会を、どうぞよろしくお願ひします!!



(左から)1年電気情報工学科 佐藤 結衣、4年物質工学科 上原 由梨奈、1年物質工学科 坪根 百花、1年機械工学科 安藤 和哉、1年電子制御工学科 森下 武尊、5年建築学科 岡田 仁子

## 国語科・社会科による「読書カード」取り組み事例の紹介

教養教育科 渡邊 健

### 1.いきさつ

去る3月のこと、昨年度(平成29年度)に、学生(特に低学年)による図書貸出冊数が伸び悩んだことを憂慮された図書館長・布施先生から、1～3年生全体に「読書カード」を提出させることにより、貸出冊数の増加を図りたいという提案がありました。

これを受けて、国語科・社会科の有志教員が新学期前にワーキンググループを設け、「読書カード」の導入のあり方について検討を重ねました。

### 2.「読書カード」導入の目的

ワーキンググループでは、学生たちが「読書カード」の取り組みの目的を理解し、主体的に行うことが大事だと考え、実施の趣旨について次のように決めました。

- ①米子高専は、全国の高専に先駆けてリベラルアーツ教育に重点的に取り組んでおり、今年度は学生の図書館利用と、読書の習慣づけを推進する活動にいっそう力を入れることになったが、今回の「読書カード」の実践は、その一環として行われるものである。
- ②この機会に学生の図書館に対する関心を高めさせ、図書館を積極的に利用する学生を一人でも多くする。学生の立場から必要な本、読みたい本を図書館に数多くクエストしてもらい、蔵書をさらに充実させることも意図している。
- ③「読書カード」に書かれた感想のうち、よいものを「としょぶらり」誌に掲載(匿名)したり、図書館の掲示物に利用したりすることで、紹介された本に学生が興味を持ち、読書への関心がさらに高まるといった効果も期待している。

### 3.実施方法

学生たちに無理のない範囲で、図書館を利用し読書に親しむ機会を持ってもらいたいという観点から、「読書カード」は前期中間試験までに1枚、同じく期末試験までに1枚を提出することとし、読む本の数は2冊としました。ただし、本を図書館で借りて、きちんと読んだことが分かるように、本の貸出/返却日や本の内容・感想を簡潔に記入して提出する形にしました。

もちろん、1年生から3年生までの学生全体に一律に取り組みさせることが、学生の自発性や本来の読書への意欲を阻害することを懸念する声もありました。しかし、学生の読書離れが言われるなか、教員からの働きかけによって状況が少しでも変わればよいという考えから実施を決めました。特に、入学後間もない1年生にとっては、この取り組みが読書への足掛かりとなり、本校の図書館に親しむきっかけとなって、一人でも読書好きの学生が増えてほしいという期待も込めておりました。

### 4.実施とその成果

「読書カード」の実施は、国語科・社会科の常勤教員6人が1～3年生の全科15クラスを分担して担当し、前期の授業開きの時期に趣意説明の上で配布、約1ヵ月半後に回収・点検を行いました。学生の試験勉強の妨げとならないよう、提出は前期中間試験より1週間ほど前の5月30日とし、6月14日最終締め切りとしましたが、未提出者はほとんどありませんでした。

今回の取り組みにより、本校図書館の貸出冊数が大幅に増加しました。6月5日の教員会議で校長先生

からお話がありましたが、昨年の同時期と比べて1年生(392冊→902冊)、2年生(197冊→639冊)、3年生(324冊→546冊)、4年生(483冊→520冊)、5年生(439冊→504冊)と大幅な伸びがあったそうです。特に1～3年生の増加が顕著なので、他に、外国語科による多読の取り組みなどもさることながら、今回の「読書カード」の実施が大きな成果を収めたことは、認めてよいのではないかと思います。

また学生たちが、当初私たちが予想していた以上に、積極的にこの「読書カード」に取り組んでくれたことは、非常に嬉しいことでした。学生たちから回収したカードを点検し、読みながら、この学生はこんな本や分野に関心を持っているのかと初めて知ったり、興味深い作品や作者について教えられたりしました。読むこと、書くことの喜びにあふれたカードがたくさんあり、点検している間は私にとって心楽しいひとときでした。

## 5. 学生にひとこと

ここで、学生に向けて若干の苦言とアドバイスですが、「読書カード」のごく一部に、内容の紹介・感想が「面白かった」「感動した」程度で終わっているものがあり、非常に残念に思いました。

すべての学力の基礎には国語力があり、それは読書によって養われ、文章を書くことによって本格的に身につきます。漢字や語彙は普通の授業でも教えていますが、文章力や構成力を実地に学ぶ機会として「読書カード」の取り組みを利用してほしいと思います。

また、今回、実用書・専門科目に関する本を取り上げた学生が多く、そのこと自体はよいことだと思いますが、せっかくの機会ですので、自分が今までに読んだことのない分野の本にもぜひ挑戦してほしいと思います。そのことにより、自分の〈知〉のフィールドが広がり、これまでより高く、幅広い視点から物事が見られるようになります。「読書カード」の提出は、前期期末試験前にもう一度ありますので、次回はさらによいものを書いてください。大いに期待しています。

## 6. 「読書カード」の有効活用と今後の課題

今回、約600人が「読書カード」を提出し、質のよいブックレビューが多数集まりましたので、これを有効活用することが当面の課題です。現在、国語科・社会科の教員が分担して、特によいものを選び出し、それらをどのような形で学生に紹介するか検討しております。

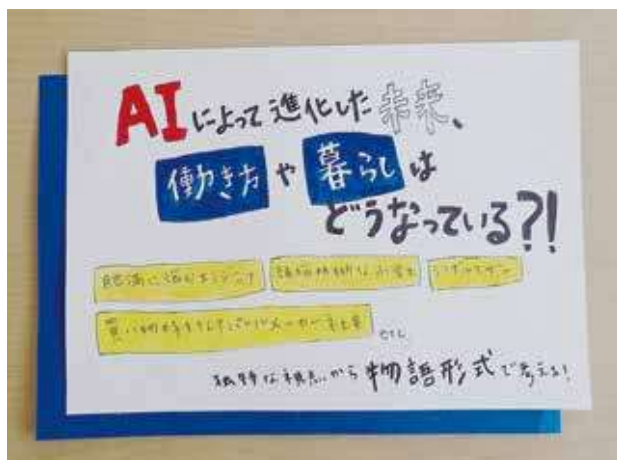
一案として、図書館内に手作りのPOP、本の帯、しおりなどを掲示し、学生から学生に向けておすすめの本を紹介し、本との出会いをつくり出す場として図書館を活性化するために、提出してもらった「読書カード」を活用したいと思っています。幸いにして、美術同好会の学生から協力が得られることになりました。オープンキャンパス、また高専祭(文化祭)の際に、作品を展示できるように現在準備を進めています。

## 7. 一担当者の感想

今回の「読書カード」導入は、校長先生が平成30年度の米子高専の重点的な取り組みの一つに挙げられた、「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育の導入」の中に、学生の図書貸出冊数を増やすことが数値目標と共に掲げられており、その方針に沿って行われたものと理解しています。ただし今回、現場で実施に関わった者として感じたのは、一部の教員の取り組みだけでは、やはり学生全体の読書推進には限界があるということです。

今後も継続して学生に読書への興味を持たせ、図書館をより多くの学生に利用してもらうようにするためには、多くの教科・学科の教員同志で知恵を出し合い、それぞれのやり方で学生に働きかけることが必要になると思います。

また、自分自身を振り返ってみると、恥ずかしいことではありますが、最近の仕事に関する本以外は、自由な読書があまりできていません。(教育、研究に関する読書も実は十分ではないのですが…)学生に読書を勧める立場にある者が、余裕のない状態ではいけないと、今回、学生の「読書カード」を読みながら改めて考えさせられました。読書は楽しくべきものという原点を、学生に気づかせてもらったように思います。



POP試作品(美術同好会)

# 学生時代に読むとためになる本(教員推薦コーナー)

## 建築学科

書名: 魔法の世紀

著者: 落合 陽一

科学者、AI(人工知能)を用いる研究者、メディアアーティストなど多くの肩書きを持つ著者が、21世紀これからの社会像をポジティブに語っています。

人口減少社会でなにかと将来を暗く考えがちですが、未来はとても明るいと思える、そんな一冊です。技術者として将来を担うみなさんにオススメします。

書名: 未来の年表 人口減少日本でこれから起きること

著者: 河合 雅司

日本が少子高齢化であることはもはや誰もが知っていること。しかし、その実態を本当に理解している人はどれだけですか?この本では、少子化・高齢化が更に進み、行き着いた先の恐るべき日本の姿を年表形式で具体的に予測しています。これからの時代を生きていく若者にこそ読んで欲しい一冊です。

書名: 鳥を識る なぜ鳥と人間は似ているのか

著者: 細川 博昭

鳥が恐竜から受け継いだものは?鳥が感じる世界とは?鳥の価値観、判断能力は?鳥の知性は?鳥の心と感情は?鳥の理解が進んで見えてきた人間とは?

道具を使う、記憶する、遊ぶ、概念を理解する。安全な環境で見せる豊かな感情。

鳥を通して、人間に想いをめぐらせてみよう。

書名: 法隆寺を支えた木

著者: 西岡 常一, 小原 二郎

40年も前に出版された本ですが、内容は色褪せてないと思います。出版された当時、私は高専の4年生でしたが、日本の誇る法隆寺宮大工の家系に生まれた西岡常一の言葉は、示唆に富むものであり、今も記憶に深く刻まれています。技術者のたまごである諸君も本書を一読し、千年以上続く匠の技に触れてみてはいかがでしょうか。

書名: 箱男

著者: 安部 公房

ためになる本というわけではないが、学生時代にこういう独特の世界観の本に触れておくのも良いのではないかと思います。タイトル通り、ダンボール箱を頭からすっぽり被り、都市を彷徨する箱男は、覗き窓から何を見つめるのか。安部公房の作品は「砂の女」や「他人の顔」など他のものもおすすめです。

書名: 子どもたちの昭和史

出版社: 大月書店

今から70~80年前の子どもたち(学生の皆さんのお

じいさん、おばあさんの世代あるいはその1世代前)が太平洋戦争のさなかにどのように暮らしていたかを写真で紹介しています。この時代と比べれば今の日本はほとんど天国のように恵まれていることが分かります。今の日本に生まれてきた幸運に感謝しましょう。

書名: 銃・病原菌・鉄 上,下

著者: ジャレド・ダイヤモンド

今の世界ではアメリカやヨーロッパの国々が先進国として我が物顔に振る舞い、アフリカ、南アメリカ、アジアの多くの国々は発展途上国(昔は後進国と言っていました)として先進国のやりたい放題を見ているしかありません。なぜこうなったのか、なぜ反対にアフリカの諸国が世界を支配できなかったのかを銃・病原菌・鉄という3つのキーワードを用いて解明していく本です。

上下2巻と長いですが、ごく一部を読むだけでも知的好奇心が大いに刺激されます。

書名: 文明崩壊 上,下

著者: ジャレド・ダイヤモンド

現在の人類の文明の寿命はあと何年でしょうか。太陽が赤色巨星となって地球の軌道を飲み込む50億年先まで持つと思っている人はいないでしょうが・・・万年という単位が思い浮かぶ人はいると思います。しかし人類の歴史上では何百年という単位で崩壊した文明はたくさんあります。その崩壊の様子を描写し、原因を探っているのがこの本です。人類の文明の寿命を延ばすためのヒントがたくさん含まれています。

上下2巻と長いですが、ごく一部を読むだけでも知的好奇心が大いに刺激されます。

## 物質工学科

書名: ライト兄弟—イノベーションマインドのカー

著者: デヴィッド・マカルー, 秋山 勝 訳

1903年12月、ノースカロライナ州キティホーク近郊で、ウィルバーとオーヴィルのライト兄弟は、12馬力のエンジンを搭載した「ライトフライヤー号」で有人動力飛行に初めて成功した。彼らが教養人であり、「空を飛ばしたい」という強い信念を持って事を成就させた点は技術者を志す人には是非読んでもらいたい。ライト兄弟が自転車屋(メーカー)で、ホンダ創始者の本田宗一郎氏も自転車屋の息子であったという共通点を思い出しました。

## 電子制御工学科

書名: どくどくマンボウ青春期

著者: 北 杜夫

高専の2年生の時に読みました。随分と刺激を受けたように記憶しています。何をすべきなのか、何がしたいのか、何のために生きるのか、自分はどこから来てどこへ行くこうしているのか。悶々と悩みながらも必死に行動して

## 学生時代に読むとためになる本(教員推薦コーナー)

いた我が青春の苦く甘い思い出とともにある一冊です。2冊持っていますので読みたい人にはお貸します。

書名: 寄席芸人伝

著者: 古谷 三敏

江戸時代から始まった落語を時代とともに変化させ、現代まで伝えていった人たちのお話。でも漫画です。これを読んで思いっきり泣き笑いをしてください。ついでに古典落語を読んで、日本の話術の楽しさに触れてみてください。

書名: 沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン, 青樹 築一 訳

1962年にアメリカ雑誌に連載されたものを単行本として出版されたもの<sup>1)</sup>で、当時の科学技術により開発され、安全と信じられ大量に使用されていたDDTという薬品の危険性を訴えた作品。

大学時代に友人に勧められて読み、内容は古いですが今でも読み返すたびに技術に携わる者としていろいろと考えさせられた作品。

1) <http://池上と平成生まれ.jp/carson-130>より引用

書名: 蜜蜂と遠雷

著者: 恩田 陸

2016年度の直木賞受賞作。ある国際ピアノコンクールを舞台にした若きピアニストたちのストーリー。ピアノの繊細な音色が聞こえてきそうな程、文章での音楽表現が巧妙。

ピアニストはもちろん、その家族、審査員、観衆、調律師など、ピアノに携わる人々の思いが伝わってくる作品。

本自体は2段構成で更に500ページを超えるが、スラスラと読むことができる。

書名: 逆説の日本史シリーズ

著者: 井沢 元彦

この本は、歴史書ではなくある意味ファンタジー小説です。ただ現存している資料に基いて歴史を考えるのではなく、当時の人々の思想や宗教観など人の心を踏まえて歴史を推理しています。解説に『史料、記録だけが歴史ではない。』とあるように、これまで習ってきた歴史を否定する面も多く、著者が示している歴史が正しいかは置いておくにしても、多角的に物事を見る分かり易い一例であるためお勧めします。

電気情報工学科

書名: 古事記(現代語訳、マンガ等、各種)

私自身、学生時代に国語の授業で読まれた。神話や絵本でおなじみの物語もあるので、古典としての原文はともかく、現代語訳ならとっつきやすいだろう。神々が織

りなすハチャメチャなエンターテインメントと捉えれば、小説としても読めるし、背後にある日本人の思想や世界観に思いをはせるのもよい。南部町の赤猪岩神社など、近場にある史跡(パワースポット?)を訪ねてみるのも一興である。

書名: ケインとアベル 上, 下

著者: ジェフリー・アーチャー

イギリスの議員であった著者の3作目の作品。77歳の現在も、「クリフトン年代記」などの長編を執筆していますが、「やられたらやり返す」初期の熱さを感じさせます。「ホテル王」が登場するなど、現アメリカ大統領を彷彿させます。続編の「ロフノスキ家の娘」はすでに絶版となっていますが、前作の娘さんがアメリカの「ガラスの天井」を破る愛のお話です。エンジニアではなく実業家になっていけばと思わせる'80年代の良作です。

書名: 悪魔の辞典

著者: A・ピアス

読むと性格があらぬ方向に進んでいきます。斜め方向の物の見方のトレーニングや、屁理屈が大好きな人のための本です。実は時代の「風刺」という中に著者のクールな思想が見え隠れする変人向けの良作です。世の中には変な人が多いのか、続編も出ています。

機械工学科

書名: 花神

著者: 司馬 遼太郎

歴史小説なのにテーマは「技術」

明治維新を成し遂げた人物と言えば、坂本竜馬、西郷隆盛、大久保利通などの政治活動家が有名です。この本を読むと、社会の大きな変革が成し遂げられるには、「技術」が欠かせないのだと気づかせてくれます。オランダ語の専門書だけから、創造力と計算を駆使して明治維新を完成させた大村益次郎(村田蔵六)の生涯を描いた名著。

書名: 空飛ぶタイヤ

著者: 池井戸 潤

2018年に映画化、ストレス解消できる小説

巨大自動車メーカーに挑む中小企業の話です。事故を起こした運送会社の社長が、自社の無実を晴らすために、仮説と証明を繰り返すストーリーが展開されます。真実を求めて原因追究する内容は、実験実習レポートの仕上げ方の参考になりそうです。読み終わるとスッキリします。

書名: 新幹線をつくった男 島秀雄物語

書名: 新幹線を走らせた男 十河信二物語

著者: 高橋 団吉

新幹線は日本の鉄道技術の結晶である。この壮大なプロジェクトの技術リーダーは、かつて蒸気機関車D51を設計し、また晩年には宇宙開発事業団でロケット開発にも携わった。荒唐無稽に思える一大プロジェクトにどのように技術者が立ち向かったか……ところが実はそのプロジェクトの政治的・予算的部分をマネジメントした国鉄総裁のお話の方がもっと面白い。新幹線の誕生は実に昭和パワハラ親父のギリギリの綱渡りの成果でもあった。技術とマネジメント双方から新幹線というプロジェクトの熱量を感じることができる本。

書名:ローマ人の物語

著者:塩野 七生

長いですが、けれども面白い。女王卑弥呼より遙か昔、すでに大帝国を築いていたローマ。自ら、知力ではギリシア人に劣り、体力ではケルト人に劣り、技術力ではエトルリア人に劣り、経済力ではカルタゴ人に劣ると認めていたローマ人が、いかにして大帝国を築き、長期にわたり繁栄し、そして消滅していったのか。長大な歴史に触れ、今日的な正しさが普遍的にも正しいといえるのかということも考えさせてくれる作品です。

書名:聊齋志異

著者:蒲松齡

古い中国の怪異譚を集めた短編集です。芥川龍之介などの著名な作家が愛読したことで知られるこの作品は、人の本質的な部分を刺激してくれるためか、ラノベ設定にもかかわらずいつまでも古さを感じさせません。連作短編ではないので、どこからでも読めるのもいい点です。

書名:予想どおりに不合理—行動経済学が明かす

「あなたがそれを選ぼうけ」

著者:ダン・アリエリー

人は合理的に選択をしているつもりでも、無自覚に不合理な選択をしてしまう動物であることを、面白い実験と軽妙な語り口で証明してくれます。著者は人が不合理な選択をするのが悪いと主張しているわけではありません。人はほぼ決まった規則にしたがって不合理な選択をするので、不合理な選択をしそうな状況では冷静に考えることが重要であると述べています。どんなときに不合理な選択をしてしまうのか知ってみたいはありませんか？

書名:夏子の冒険

著者:三島 由紀夫

三島由紀夫ってどう思います?教科書的で堅苦しくって古くさい?いえいえ、三島由紀夫は難しい純文学だけを書いている作家ではありません。彼の芸風はもっと幅広い—SFもあればエロチックなものや風刺小説もあります。「夏子の冒険」はなんとラノベです。三島の芸術的

に美しい文章をラノベで軽く味わってみましょう。

書名:新釈 走れメロス他四篇

著者:森見 登美彦

古典的名作のパロディーです。森見登美彦の作品なので、名作が腐れ学生の普通でない日常として描かれます。パロディーですが、元の作品を知らなくても楽しめます。これを読んでから元の名作を読んでみるのもいいでしょう。特に、藪の中(芥川龍之介)、桜の森の満開の下(坂口安吾)、百物語(森鷗外)は絶品です。

書名:夜のピクニック

著者:恩田 陸

第2回本屋大賞受賞作品。青春小説の傑作です。年を取ってから昔を懐かしんで読んでみるのもいいかもしれませんが、学生の時に是非味わってもらいたい作品です。物語はただただ歩くだけなのですが、ぐいぐい引き込まれてしまいます。べーべーいいやつだよなー。

書名:きみの友だち

著者:重松 清

友だちについて書いた連作短編集です。短編ごとに語り手が代わり、物語を別の視点から眺めることとなります。いやに感じられた子も、彼女視点で語られると感じ方が変わってきます。生き方とか友だちについて考えさせられる作品です。

書名:ぼくのメジャースプーン

著者:辻村 深月

文句なしの面白さ。エンターテインメント小説はかくあるべきという作品です。正しさとか正義とかについても考えさせられますが、そんなことより何よりもかく面白い。ただ、辻村深月の作品は、いろいろな作品が繋がっているので、「子どもたちは夜と遊ぶ」や「名前探しの放課後」や「凍りのくじら」も読むと、さらに物語が膨らみます。

書名:砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない

A Lollypop or A Bullet

著者:桜庭 一樹

寂れた鳥取の田舎町が舞台となっていますが、はっきりいって米子—しかも弓浜半島の付け根部分—が舞台です。海野藻屑のバラバラ死体が見つかる小山は粟島神社のことでしょう。つまりこの作品は、地元が舞台の地元作家の小説です。ただ、そんなことを差し引いても、この作品は輝いています。「好きって絶望だよね」ってすごいセリフだと思いませんか？

書名:サラバ!

著者:西 加奈子

直木賞受賞作は面白くない作品が多いのですが、こ

## 学生時代に読むとためになる本(教員推薦コーナー)

の作品は別。傑作です。生きることに悩んでいる人は、この作品を手にとってほしいと思います。きっと「サラバ」の本当の意味を最後に知ったとき、生きていく元気がもらえます。

### 教養教育科

書名: インドとイギリス

著者: 吉岡 昭彦

現在、大きく発展しているインド。そのインドは、過去にイギリスの植民地として、イギリス帝国の繁栄を支えてきました。この本は、「帝国主義と植民地問題」について「インドとイギリス」を対象に検討した一冊ですが、著者のインドでの体験談に、自分の常識が覆されます。世界を知り、自分を知るために、旅行記を読むつもりで、手に取ってほしい一冊です。

書名: 魚のさばき方(食の教科書)

出版社: 樫出版社

山陰の海には釣りの名所がたくさんあり、遠方からも釣り人が訪れている。ただ魚を釣って楽しむのも良いが、それを自ら捌いて食すのは格段の幸せであり、生命のありがたさを感じる。そこでオススメしたいのは魚の捌き方や魚料理に関する知識を身につけることである。捌くのは難しいと思われがちだが、魚の仕組みを知っていれば、すぐにできるようになる。この本を読めばきっと魚の見方が変わるであろう。

書名: 風と共に去りぬ

著者: マーガレット・ミッチェル

とにかく大作である。1巻では終わらない。文庫版でも5巻まである。これほどの大作にぜひ挑戦してほしい。内容は恋愛ロマンで、背景には、アメリカの南北戦争、移民問題(アイルランド系)、黒人奴隷問題、貧民問題、さらに世界大恐慌が赤裸々に描かれている。作家はこの1冊で有名になった。物語は、美人とは言い難い一人の女性の生き様が描かれている。19世紀の南北戦争時代が背景にあるので、とにかくよく人が死ぬ。女主人公スカーレットの周りでは、本当によく人が死ぬ。意中の男性の奥さんが病死するので、その男性と最後には結ばれるのかと思いきや、果たして、、、それは読んでのお楽しみ。ぜひ大人の恋愛観にどっぷりと浸かって欲しい1冊です。

書名: もう一度デジャ・ヴ

著者: 村山 由佳

事故に遭った後、前世の夢を繰り返し見るようになった男子高校生・矢崎武志。彼はいつも同じ女性と愛し合い、引き裂かれていた。そう、200年前、戦国時代の忍びだったあの時も、彼女とは結ばれぬまま、仲間と共に滅びたのだった。今生の矢崎と彼女の運命は・・・?

直木賞作家のデビュー作ですが、転生物ファンタジー

で20年前の作品とは思えない瑞々しさがお勧めです。ページ数も少なく、読みやすいですよ。

書名: オッペンハイマーとテラー 悲劇の物理学者たち

著者: 足立 壽美

オッペンハイマーは原爆の、そしてテラーは水爆の開発責任者です。オッペンハイマーは大戦後、政治家たちが原爆を外交交渉のカードとして使う姿を見て失望し、当時進められていた水爆の開発に反対しました。しかし、その結果オッペンハイマーは公職を追放されてしまいます。一方、テラーは政治家たちの要請にこたえ、ついに水爆を完成させてしまいました。しかし、テラーはオッペンハイマーと対立したことにより学界で孤立し、ますます兵器開発に傾倒していきます。

本来純粋であるべき研究が政治権力と結びつくことのような結末を迎えるかを示す、科学技術者必読の一冊です。

書名: 蜜蜂と遠雷

著者: 恩田 陸

ピアノコンクールを舞台にして、音楽を縦糸に、様々な若者の人生の喜怒哀楽と才能の限らない可能性を横糸に織りなされる人間模様を描いた作品です。文字に音符が、文章にメロディーが立ち上がってくるような描写と音楽性を語る作者の巧緻な文章に、音楽の好きな人、楽器を演奏する人なら特に引きつけられること請け合いです。生きるということは何なのか、そんなことを考えさせられる一冊です。

書名: 自然を感じるこころ

著者: 野田 研一

「なぜ人には自然が必要なのか」という問いに向き合い、文学はもとより、わたしたちの身近な日常世界を「自然と人間との関係」という観点から鮮やかに読み解いています。人は自然をどう感じてきたか。味わい豊かな作品を通じ、人と自然の関係を再確認することができる一冊です。

書名: Fランク化する大学

著者: 音 真司

モップを投げつけられた教員、孤立する優秀な学生、客寄せパンダの有名人教授。どれもこの本で紹介される「大学」の話です。大学進学を志しても、残念ながら、第一志望の大学に行けるとは限りません(私がそうでした)。しかし、たとえ第一志望でなくとも、受験生の段階から進学後のビジョンを持っておけば、より良い将来を掴めるはず。大学選びと、進学後の学業について有益なヒントを与えてくれる一冊として、この『Fランク化する大学』をお勧めします。



書名: 勉強の結果は「机に向かう前」に決まる

著者: 池田 潤

有名かどうかではなく、自分が好きかどうか、自分がやりがいを感じられるかどうかで進学や就職を選択する人は、人生を間違えない。日々充実感を得ながら、「形式」ではなく、自分がどう感じるか、自分が幸せであるかという「実質」を大事にした人生を送ることができるはずだ。短期的成功でなく長期的成功に価値を置き、その目標を実現するための行動を取ろうとする人に、ぜひ読んでいただきたい。

書名: 統計でウソをつく法

一数式を使わない統計学入門

著者: ダレル・ハフ, 高木 秀玄訳

新聞や雑誌、パンフレットなどでアンケートや世論調査などをよく目にします。これら統計データは数字で表されることもあり、いかにも「客観」的な情報で信頼できそうですが…。本書は、これら統計に隠された作成者の「主観」、それに基づく巧妙な操作を見抜くための解説本です。50年前のしかも外国の本ですので、もしかしたら同類の他の良書があるかもしれませんが、長く読まれているので、少なくとも「読むとためになる本」だと思います。

書名: 栽培植物と農耕の起源

著者: 中尾 佐助

「カルチャー」の語源は「耕す」

英語の「カルチャー」は「耕す」という意味です。自然に手を加え、生活を作りあげるのが文化です。農業と文明・文化の関係、自然支配型の欧米の文化と自然調和型の東洋の文化の違い、近年の日本の自然破壊などについて、参考になることが多いです。

書名: なぜ、その英語では通じないのか?

著者: マーク・ピーターセン

長年、大学で日本人学生の英作文を指導してきた著者が、日本人学生に特徴的な間違いや街中で見つける面白い和製英語について取り上げ、より通じる言い方を提案してくれる内容です。それぞれの言語のもつニュアンスの違いが、著者の鋭い視点から分析されています。英語の表現力を磨きたい人におすすめです。

書名: それでも人生にイエスと言う

著者: V・E・フランク

自分に自信や価値を見出せない時、「人生の意味」を問うてしまう時、この本を読んでみて欲しい。著者は、ナチスによって強制収容所に送られ、妻や家族を失うも、生き永らえた精神科医。彼の基本思想は、収容所に送られる前に既に形成されていたが、収容所での地獄のような経験を通じより一層の力を増す。人間の3つの価値について説くが、何人たりとも奪い得ない「態度価値」を力説する。「人生の意味」に真っ向対峙する本気の書籍。

## 読書感想文募集について

【応募資格】 本科生及び専攻科生

【対象図書】 自由に選んだ図書

※ 小説・ノンフィクション・哲学・科学・絵本など、どのようなジャンルでもかまいません

【用紙・字数】 B4縦書き原稿用紙(400字詰) 5枚以内

【応募作品】 自筆のこと。個人のオリジナルで未発表のもの。

【応募締切】 10月5日(金)

【提出先】 本科生:各クラス担任(各クラス図書委員が集め担任へ渡す)

専攻科生:図書館(学術情報係)

【審査委員】 各クラス担任・図書館長・図書館運営委員・国語科教員

【表彰】 最優秀賞:1編、賞状・副賞(図書カード 5,000円相当)

優秀賞:5編、賞状・副賞(図書カード 3,000円相当)

佳作:5~10編、賞状・副賞(図書カード 1,000円相当)

【表彰式】 11月中

【その他】 (1)入賞作品の著作権は米子工業高等専門学校に帰属します。

(2)入賞作品は『としょぶらり』(印刷版及びWeb版)に掲載します。

# 新着図書一覧(平成30年2月~6月)

No.	書名	著者等
1	新・知の技法	小林 康夫, 船曳 建夫(編集)
2	感性・こころ: 自分らしい自分をつくるひびとつもの知をひらく: リベラルアーツ講座	坂口 光一
3	考えるということ: 知的創造の方法	大澤 真幸
4	これが「教養」だ	清水 真木
5	世界不思議地図	佐藤 健寿
6	自分で考えよう: 世界を知るための哲学入門	ペーテル・エックバリ
7	論語入門	井波 律子
8	10年後、君に仕事はあるのか?	藤原 和博
9	親鸞「四つの謎」を解く	梅原 猛
10	陰謀の日本中世史	呉座 勇一
11	観応の擾乱: 室町幕府を二つに裂いた足利尊氏・直義兄弟の戦い	亀田 俊和
12	応仁の乱: 戦国時代を生んだ大乱	呉座 勇一
13	逆説の日本史 1~20	井沢 元彦
14	日本人と日本文化: 対談	司馬 遼太郎, ドナルド・キーン
15	アースダイバー	中沢 新一
16	ローマ人の物語 1~15	塩野 七生
17	名画で読み解くロマン派12の物語	中野 京子
18	名画で読み解くブルボン王朝12の物語	中野 京子
19	名画で読み解くハプスブルク家12の物語	中野 京子
20	名画で読み解くイギリス王家12の物語	中野 京子
21	ボクは算数しか出来なかった	小平 邦彦
22	回想黒部ダムへの道	高見 憲治
23	自動車王フォードが語るエジソン成功の法則	ヘンリー・フォード, サミュエル・クラウザー
24	ライト兄弟: イノベーション・マインドの力	デヴィッド・マカルー
25	奇界遺産 = The wonderland's heritage	佐藤 健寿
26	果てしなく美しい日本	ドナルド・キーン
27	日本再興戦略	落合 陽一
28	創発的破壊: 未来をつくるイノベーション	米倉 誠一郎
29	最強兵器としての地政学: あなたも国際政治を予測できる	藤井 厳喜
30	図解世界史で学べ! 地政学	茂木 誠
31	戦略的地政学: ランドパワーVSシーパワー	秋元 千明
32	話したくなる世界の選挙: 世界の選挙をのぞいてみよう	コンデックス情報研究所(編集)
33	世界の選挙制度	大林 啓吾, 白水 隆
34	国境なき医師団: 終わりなき挑戦、希望への意志	レネー・C.フォックス
35	面白くて眠れなくなる社会学	橋爪 大三郎
36	Fランク化する大学	音 真司
37	教養の力: 東大駒場で学ぶこと	斎藤 兆史
38	指導者(リーダー) はこうして育つ: フランスの高等教育グランゼコール	柏倉 康夫
39	勉強の結果は「机に向かう前」に決まる	池田 潤
40	菊と刀: 日本文化の型	ルース・ベネディクト
41	日本人が大切にしたいうつしい暮らし: 歴史きたりアエノコト	井戸 理恵子
42	科学者と戦争	池内 了
43	理科系のための英語論文表現文例集: ヘルプシートでかならず見つける	藤野 輝雄
44	理工系なら必ず知っておきたい英語論文を読みこなす技術	福田 尚代, 西山 聖久
45	怠け数学者の記	小平 邦彦

No.	書名	著者等
46	どうして高校生が数学を学ばなければならないの?	大竹 真一(編集)
47	離散数学とその応用: 工学基礎	徳山 豪
48	線形計算の数理 オンデマンド版	杉原 正顕, 室田 一雄
49	群論, これはおもしろい: トランプで学ぶ群	飯高 茂
50	ガロア理論	木村 俊一
51	環論, これはおもしろい: 素因数分解と循環小数への応用	飯高 茂
52	体論, これはおもしろい: 方程式と体の理論	飯高 茂
53	美しすぎる「数」の世界: 「金子みすゞの詩」で語る数論	清水 健一
54	基礎からの力学系: 分岐解析からカオス的履歴へ	小室 元政
55	ヤバい統計学	カイザー・ファング
56	儲かる物理: 人生を変える究極の思考力	鈴木 誠治
57	ひまわり8号と地上写真からひと目でわかる日本の天気と気象図鑑	村田 健史, 武田 康男, 菊池 真以
58	火山全景: 写真でめぐる世界の火山地形と噴出物	白尾 元理(写真), 下司 信夫(解説)
59	使おう酵母でできるtwo hybrid	水野 貴之
60	遺伝子: 親密なる人類史 上・下	シッダールタ・ムカジー
61	人類進化の謎を解き明かす	ロビン・ダンバー
62	若い読者のための第三のチンパンジー: 人間とい動物の進化と未来	ジャレド・ダイヤモンド
63	野性の知能: 裸の脳から、身体・環境とのつながりへ	ルイーゼ・バレット
64	ペンギンが教えてくれた物理のはなし	渡辺 佑基
65	バッタを倒しにアフリカへ	前野 ウルド 浩太郎
66	鳥を識る: なぜ鳥と人間は似ているのか	細川 博昭
67	人体探求の歴史	笹山 雄一
68	メカ屋のための脳科学入門: 脳をリバースエンジニアリングする	高橋 宏知
69	日常と非日常からみるこころと脳の科学	宮崎 真, 阿部 匡樹, 山田 祐樹(ほか)
70	脳と身体の動的デザイン: 運動・知覚の非線形力学と発達	多賀 厳太郎
71	ROM測定法: 臨床での測定精度を高める: 代償運動のとうえ方と制動法の理解と実践	齋藤 慶一郎
72	つながる脳科学: 「心のしくみ」に迫る脳研究の最前線	理化学研究所脳科学総合センター編
73	毒と薬の世界史: ソクラテス、錬金術、ドーピング	船山 信次
74	脳の意識機械の意識: 脳神経科学の挑戦	渡辺 正峰
75	苦海浄土(くがいじょうと): わが水俣病	石牟礼 道子
76	ネガティブ・ケイビリティ: 答えの出ない事態に耐える力	帯木 蓬生
77	運動とメンタルヘルス: 心の健康に運動はどう関わるか	永松 俊哉編
78	病の皇帝「がん」に挑む: 人類4000年の苦闘 上・下	シッダールタ・ムカジー
79	脳疲労が蓄える最高の休息法「CDブック」: 「脳科学」の現実「脳」のメンテナンス入門	久賀谷 亮
80	死ぬまで歩くにはスクワットだけすれればいい	小林 弘幸
81	AIが創造する次世代型医療: ヘルスケアの未来はどう変わるのか	ヘルスケア総合政策研究所企画・制作
82	「工学」のおもしろさを学ぶ	東京電機大学編
83	科学と産業の発展を支えた分析機器・科学機器遺産: いかにして技術基盤は築かれたか	分析機器・科学機器遺産編集委員会編纂
84	マンガでわかる技術英語	坂本 真樹
85	生産システム編	藤本 隆宏
86	生産資源・技術管理編	藤本 隆宏
87	イスラーム世界の都市空間	陣内 秀信, 新井 勇治編
88	建築スケッチ・パース基本の「き」	山田 雅夫
89	美しい世界の傑作ミュージアム: 何度でも行きたい素敵な博物館、美術館	MdN編集部編
90	すまい再発見: 世界と日本の珠玉の住宅76	住総研編

No.	書名	著者等
91	はじめての幾何公差設計法 (GD&T)	山田 学
92	最大実体公差	山田 学
93	設計のムダ取り公差設計入門：コストと品質のバランスを最適化する	栗山 弘
94	新幹線をつくった男鳥秀雄物語	高橋 団吉
95	電気革命：モールス、ファラデー、チューリング	デイヴィッド・ボダニス
96	ビギナーのための小型モーター回路集：わかる役立つすぐ使える	谷腰 欣司
97	インテル：世界で最も重要な会社の産業史	マイケル・マローン
98	チョコレートの世界史：近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石	武田 尚子
99	氷温食品入門	山根 昭彦
100	高校生と親の「お金の教科書」	飯島 健二
101	コーヒーが廻り世界史が廻る：近代市民社会の黒い血液	白井 隆一郎
102	トラクターの世界史：人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち	藤原 辰史
103	ジャガイモの世界史：歴史を動かした「貧者のパン」	伊藤 章治
104	トウガラシの世界史：辛くて熱い「食卓革命」	山本 紀夫
105	ゼロから理解する食肉の基本：家畜の飼育・病気と安全流通ビジネス	西村 敏英(監修)
106	樹と暮らす：家具と森林生態	清和 研二、有賀 恵一
107	戦略営業	グローバルタスクフォース
108	店舗経営	グローバルタスクフォース
109	アンケート調査入門：失敗しない顧客情報の読み方まとめ方	朝野 熙彦
110	商品・価格戦略	グローバルタスクフォース
111	戦略物流	角井 亮一
112	マーケティング入門	小川 孔輔
113	コンテナ物語：世界を変えたのは「箱」の発明だった	マルク・レビンソン
114	新幹線を走らせた男：国鉄総裁十河信二物語	高橋 団吉
115	侘び然び幽玄のこころ：西洋哲学を超える上位意識	森神 逍遙
116	ブルーノ・ムナリーのファンタジー：創造力ってなんだろう?	ブルーノ・ムナリー
117	西洋美術史：世界のビジネスエリートが身につける教養	木村 泰司
118	イスラム芸術の幾何学：天上の図形を描く	ダウド・サットン
119	フナイタケヒコ：絵画の光景	鳥取県立博物館(編集)
120	思考都市坂口恭平：Drawings1999-2012	坂口 恭平
121	プルーゲルへの招待	朝日新聞出版編
122	プルーゲルの世界	森 洋子
123	図説ヒエロニムス・ボス：世紀末の奇想の画家	岡部 紘三
124	謎解きヒエロニムス・ボス	小池 寿子
125	プルーゲルの「子供の遊戯」：遊びの図像学	森 洋子
126	名画で読む旧約・新約聖書の世界：キリスト、聖母、英雄、預言者、使徒、聖人、聖女…聖書の様々な物語はいかに描かれたのか?	小西 真由美、中島 邦子(編集)
127	西洋美術史を変えた名画150	木村 泰司
128	風が吹くとき	レイモンド・ブリッグズ
129	シュレディンガーの哲学する猫：シュレ猫とコトハ	竹内 薫、竹内 さなみ(原作)
130	コウゲイノモリへ：探究する工芸家たち	三浦 努(編集)
131	かわいい色の本：デザインと言葉の配色ブック	ingectar®
132	きれいな色の本：デザインと言葉の配色ブック	ingectar®
133	現代ゲーム全史：文明の遊戯史観から	中川 大地
134	ことばの科学：東京言語研究所開設50周年記念セミナー	西山 佑司、杉岡 洋子(編集)
135	多言語主義社会に向けて	平高 史也、木村 薫郎、クサフ(編集)

No.	書名	著者等
136	書くことが思いつかない人のための文章教室	近藤 勝重
137	故事成語	合山 究
138	英語学を学ぼう：英語学の知見を英語学習に活かす	高橋 勝忠
139	英語の冒険	メルヴィン・ブラッグ
140	日本の英語、英文学	外山 滋比古
141	TOEIC L&R test出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤
142	TOEIC L&R TEST出る単特急銀のフレーズ：新形式対応	TEX 加藤
143	スプリングの英語史	サイモン・ホロビン
144	リンケージ英語構文100	戸沢 全崇
145	前置詞キャラ図鑑：核心のイメージがわかる!	関 正生
146	斜めからの学校英文法	中島 平三
147	完全理系専用英語長文スペクトル	関 正生、岡崎 修平
148	はじめてのホームステイ英会話：留学・ホームステイリアルに体感	小林 奈々子、シエラ・ヘイステイングス
149	日常生活英語のトリセツ：基本表現	長尾 和夫、テッド・リチャーズ
150	スコット・スロヴィックは語る：ユッカマウンテンのように考える	スコット・スロヴィック
151	世界文学大図鑑	ジェイムズ・キャントン
152	夏目漱石	新潮文庫編
153	王朝びとの恋	西村 亨
154	源氏物語文化論	原 豊二
155	海の翼：エルトゥールル号の奇蹟	秋月 達郎
156	崩れる脳を抱きしめて	知念 実希人
157	人魚の眠る家	東野 圭吾
158	魔力の胎動 = Laplace's movement	東野 圭吾
159	ラプラスの魔女	東野 圭吾
160	始祖鳥記	飯嶋 和一
161	機関車先生	伊集院 静
162	星の子	今村 夏子
163	チルドレン	伊坂 幸太郎
164	サブマリ	伊坂 幸太郎
165	梶井基次郎「檸檬」作品論集	鈴木 貞美編
166	余命10年	小坂 流加
167	黄金の樹	黒井 千次
168	未来	湊 かなえ
169	二代目の帰朝 (有頂天家族 第2部)	森見 登美彦
170	もう一度デジャヴ	村山 由佳
171	ひと	小野寺 史宜
172	そして、バトンは渡された	瀬尾 まいこ
173	青くて痛くて脆い	住野 よる
174	小説心が叫びたがってるんだ。	豊田 美加
175	無常の使い	石牟礼 道子
176	因伯漢詩輯：鳥取県漢詩協会漢詩集	澤田 健太郎(編集)
177	アーサー王神話大事典	フィリップ・ヴァルテール

# 図書館統計

## 1.平成29年度 学生利用冊数ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者等
1位	31	TOEICテスト公式問題集:新形式問題対応編	Educational Testing Service
2位	29	Study guide and solutions manual for McMurry and Simanek's fundamentals of organic chemistry	Susan McMurry
3位	22	オペアンプの基礎マスター	堀 桂太郎
4位	17	1駅1題新TOEIC TEST文法特急	花田 徹也
5位	15	公式TOEIC Listening & Reading 問題集	Educational Testing Service
6位	14	材料力学	久池井 茂(編著)
6位	14	[2015年度版]文部科学省後援工業英検4級問題集	日本工業英語協会
6位	14	君の臓腑をたべたい	住野 よる
9位	13	The blue diamond	Sir Arthur Conan Doyle
9位	13	大学編入のための数学問題集	碓氷 久[ほか]共著
9位	13	コンビニ人間	村田 沙耶香

## 2.平成29年度 利用状況

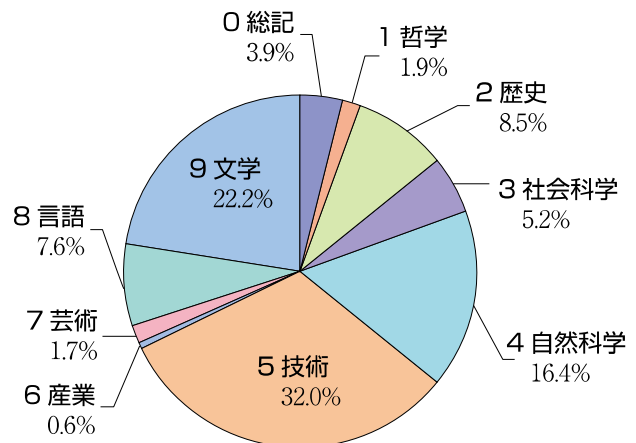
開館日数:283日

区分(単位)	学生	教職員	校外者	合計
学生・教職員数(人)	1,076	117	17	1,210
入館者数(人)	39,036		855	39,891
図書貸出者数(人)	3,809	524	137	4,470
図書貸出冊数(冊)	7,691	1,988	290	9,969

## 3.平成29年度 NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数(冊)
0 総記	391
1 哲学	189
2 歴史	845
3 社会科学	520
4 自然科学	1,635
5 技術	3,190
6 産業	57
7 芸術	168
8 言語	755
9 文学	2,219
合計	9,969

順位	分類	貸出率(%)
1位	5 技術	32.0
2位	9 文学	22.2
3位	4 自然科学	16.4
4位	2 歴史	8.5
5位	8 言語	7.6
6位	3 社会科学	5.2
7位	0 総記	3.9
8位	1 哲学	1.9
9位	7 芸術	1.7
10位	6 産業	0.6
	合計	100.0



# 図書館統計

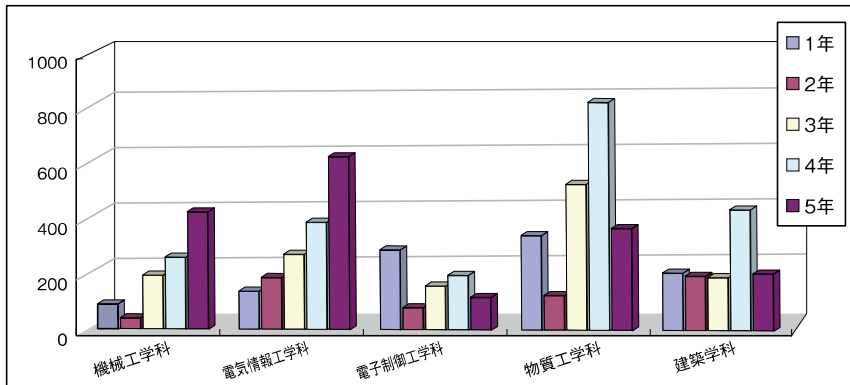
## 4.平成29年度 学年・学科別貸出冊数

本科・専攻科

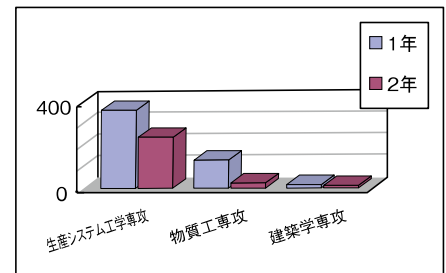
(単位:冊)

学科等 学年	本 科					専攻科			学生計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	90	138	290	344	209	367	128	10	1,576
2年	39	188	80	126	198	238	19	6	894
3年	195	273	159	531	193				1,351
4年	261	390	198	830	440				2,119
5年	426	629	118	371	207				1,751
合計	1,011	1,618	845	2,202	1,247	605	147	16	7,691

平成29年度 本科 学年・学科別貸出冊数



平成29年度 専攻科 貸出冊数



## 学生図書委員一覧

### 平成30年度 学生図書委員一覧

〈前期〉【委員長】平井 壘 【副委員長】長谷川 千紘、深田 唯花

〈後期〉【委員長】栗谷 壮良 【副委員長】足立 美咲、影山 裕

学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	安藤 和哉	佐藤 結衣	森下 武尊	坪根 百花	潮 真梨子
2	岡垣 航	北中 佑汰	河津 雄大	足立 美咲	長谷川 千紘
3	栗谷 壮良	平野 聡	眞田 穂果	平井 壘	大下 万優子
4	影山 裕	種 香夏	漆原 瑞紀	上原 由梨奈	深田 唯花
5	山下 海誓	小野 友輔	小西 隆文	渡辺 舞	岡田 仁子

## 平成30年度 読書会についてのお知らせ

読んだ作品について、学科、年齢の垣根を取り払い語り合う。  
うまく語れなくても、他の人の感想を聞く。そんな時間があっても…  
是非参加してみてください。

### 第1回

5月30日(水)  
15:40~

事前に読んでおいて欲しい作品  
『羊と鋼の森』 宮下 奈都

### 第2回

7月18日(水)  
15:40~

事前に読んでおいて欲しい作品  
『告白』 湊 かなえ

### 第3回

10月10日(水)  
15:40~

事前に読んでおいて欲しい作品  
『ゼロ弾きのゴージュ』『よだかの星』他 宮沢 賢治

### 第4回

平成31年 1月23日(水)  
15:40~

事前に読んでおいて欲しい作品  
『か「」く「」し「」ご「」と「」』 住野 よる

※参加希望の方は、図書カウンターで前日までに参加申し込みをしてください。  
※事前に読んでおいて欲しい作品は図書館で準備しますが、数に限りがあるので留意してください。  
※興味のある回だけでもかまいませんので、お気軽にご参加ください。  
※作品に興味がある方も参加を受け付けます。  
米子高専 リベラルアーツセンター長 連絡先:米子高専図書館(学術情報係) TEL:0859-24-5028

## とっとり県民カレッジ連携講座

## 平成30年度 米子高専 文化セミナー

### 第1回

5月27日(日)  
10:00~12:00

多様な光デバイス応用における  
非工学的観点:光物性の卑近さ

電子制御工学科 角田 直輝

会場:米子市福祉保健総合センター  
ふれあいの里 4階中会議室1・2

我々は目で光に照らされた物を見る事ができる。つまり、光を検知できる。したがって、目は光デバイス的一种と見ることができる。したがって、人類が光を様々な手段に利用してきたのはごく自然なことであるといえる。

本セミナーでは太陽電池など卑近な光デバイスの例をいくつか紹介し、その機能を裏付ける光物性と工学以外の学術的観点を話者の解釈を交えて解説することで、聴衆の興味・関心を引きつけたいと考えている。

### 第2回

6月24日(日)  
10:00~12:00

米子高専の医工連携への取り組み

電子制御工学科 中山 繁生

会場:米子市福祉保健総合センター  
ふれあいの里 4階中会議室1・2

米子高専では、平成28年に鳥取大学医学部と包括連携協力に関する協定が締結されました。また同年には、米子高専に医工連携研究センターが創設されました。本セミナーでは、鳥取県の人口や産業などの現状と課題を踏まえ、さらに第4次産業革命などをキーワードに挙げながら、これからの医工連携教育の必要性についてお話しします。また、米子高専の医工連携研究例もご紹介いたします。

### 第3回

10月28日(日)  
10:00~12:00

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と  
鳥取県

教養教育科 酒井 康宏

会場:米子市福祉保健総合センター  
ふれあいの里 4階中会議室1・2

19世紀末に山陰地方を訪れた小泉八雲は、特に松江との関わりにおいては、さまざまな場面で取り上げられますが、鳥取県との関わりはあまり語られていないのではないのでしょうか。今回は、八雲と鳥取県との関わりについて述べてみようと思います。八雲と皆生温泉、八雲と大山町(中山町)、八雲と赤崎の辺りの関わりについてお話しします。

### 第4回

11月18日(日)  
10:00~12:00

“移民問題”を考える

~イギリスの移民政策を例にして~

教養教育科 原田 桃子

会場:米子市福祉保健総合センター  
ふれあいの里 4階中会議室1・2

現在、多くの国で移民・難民の受け入れが議論されています。しかし、移民・難民の問題は、最近に限った話ではありません。第二次世界大戦後、イギリスには、旧植民地から多くの人々が流入しました。彼らの存在はイギリスの戦後復興を支えた一方で、本国市民との間に軋轢を生み、社会問題とみなされていきます。こうした状況に、当時のイギリス政府はどのように対応したのでしょうか。本セミナーでは、戦後から現在に至るイギリスの移民政策についてお話しします。

本文化セミナーは、身近な疑問から最先端技術に至るまで様々な課題をテーマとした本校教員による講演を年4回ずつ開催しております。ぜひ会場にお立ち寄りください。

会場:米子市福祉保健総合センター ふれあいの里 4階中会議室1・2(米子市錦町1丁目139-3)

※JR米子駅よりお車で約10分 ※バスをご利用の場合、公会堂前バス亭で下車しそこから徒歩5分~7分

※駐車場利用台数に限りがございますので、公共交通機関のご利用、乗りあわせでのご来場をお願いいたします。